

車いす座位についての意識調査と 快適に過ごすための取り組み

石川県鳳珠郡穴水町

特別養護老人ホーム能登穴水聖頌園

機能訓練指導員 北 洋介

取り組んだ背景

- 施設で使用している車いすは
 - ・ 機能ない機種ばかり
 - ・ サイズは同じであり小柄な方もこの大きな車いすの座っている
 - ・ 長時間座るには適してない など . . .



さらに . . .

今まで施設でPT/OTが不在であったため**適切な福祉用具を提供できていない状態**であった

日本車いすシーティング協会から抜粋

- 座位を保つことが困難になると、ADL上の様々な動作が障害され社会活動に影響が表れる
- 座ることで意識レベルや認知能力の改善につながる
- 座位姿勢がよくなると、様々な社会活動に参加することができる

公益財団法人テクノエイド協会から抜粋

- シーティングはエビデンス化されていない
- 姿勢の悪さが健康に影響を与えることは現場従事者の多くが実感
- エビデンス化されないが、様々な取組みでそれなりの効果がある

座位姿勢について改善していくことが重要！！

そこで今回は

- 職員に対する車いす座位についての意識調査
- 現状の車いすでも快適に座れるようにするために今なにができるか

この2点について取り組んだ

具体的な取り組み

1. 座位の状況の確認

現在どのような状況で車いすに座っているか3点を調査した

- ①クッションの有無
- ②フットレストの高さ
- ③座位時間

2. 車椅子シーティングの研修・アンケート

- ①車いすシーティングに対しての知識を深めるためシーティングの研修に参加
- ②各施設で伝達研修を実施し、アンケートも実施

具体的な取り組み アンケート内容について

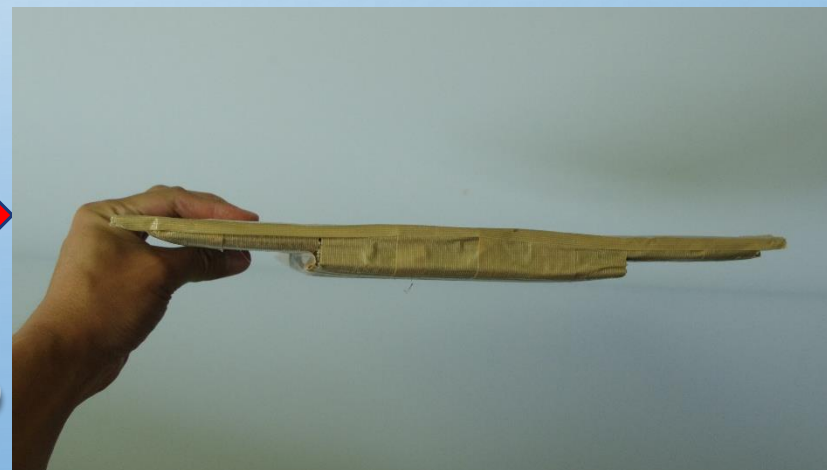
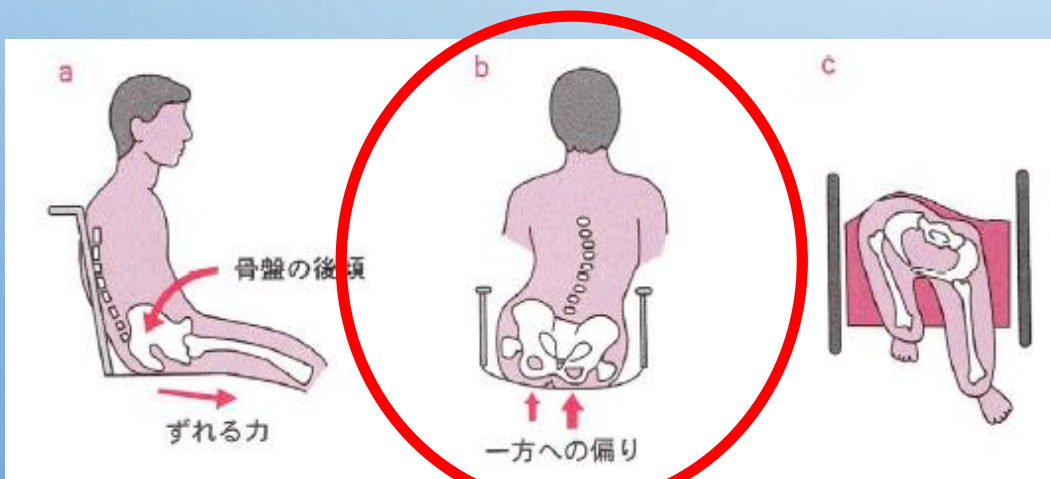
- ①シーティングという言葉を知っているか
- ②車いすを利用者様に合わせて調整しているか
- ③崩れた姿勢の方を見たときに正しい姿勢に座らせることができるか？
- ④崩れたままの姿勢で座り続けるとどのような悪影響があると思いますか？

以上4項目のアンケートを実施した

具体的な取り組み

3. 快適に座る取り組み

1. 快適に座れるように車いす用のクッションの購入の検討
2. フットレストの高さ調整を行う
3. 研修で紹介のあったスリングシート座面を修正する船底型の修正板の作成し使用する



活動の成果と評価

1. 座位状況の確認

クッションの使用状況

- 褥瘡のリスクが高い方は低反発やジェルクッションを使用
- 私物のクッションを使用の利用者様 5名
- 約30名は利用者様がクッションがない状況であった

座位時間

この現状の中で1日平均で約5～6時間、長い方では約8時間も車椅子を利用している状況であった

活動の成果と評価

2. 車椅子シーティングの研修・アンケート

崩れた姿勢による悪影響や崩れた姿勢の体験、調整の
していない車いすの乗車体験などを行った

さらに船底型の修正板を体感すると

「修正板の有無で座り心地がぜんぜん違う」

「普通の椅子に座る感じに近い」



活動の成果と評価



研修の感想では・・・

- ・ 体験して利用者様がこんな大変な思いで座っていることが分かった
- ・ 車いすにクッションが必要だということが体感できた
- ・ 姿勢で利用者様の生活が変わってくるということが分かった
- ・ 一人一人に良い姿勢が違うことが分かった。ぜひ直接利用者様をモデルにして指導してほしい

アンケートの結果

シーティングという言葉を知っているか	知っている 19%	知らない 81%
車椅子を利用者に合わせ調節しているか	している・依頼している 66%	していない 34%
崩れた姿勢の方を正しく座らせられるか	できる 71%	できない 29%
崩れた姿勢が続くとどのような悪影響があるか	褥瘡や拘縮の発生、腰痛、姿勢が歪む、誤嚥しやすくなる、内臓機能の低下など	

活動の成果と評価

3. 快適に座れる取り組み

車いす用ではないがクッションを購入し座位時間の長い方を優先に使用した

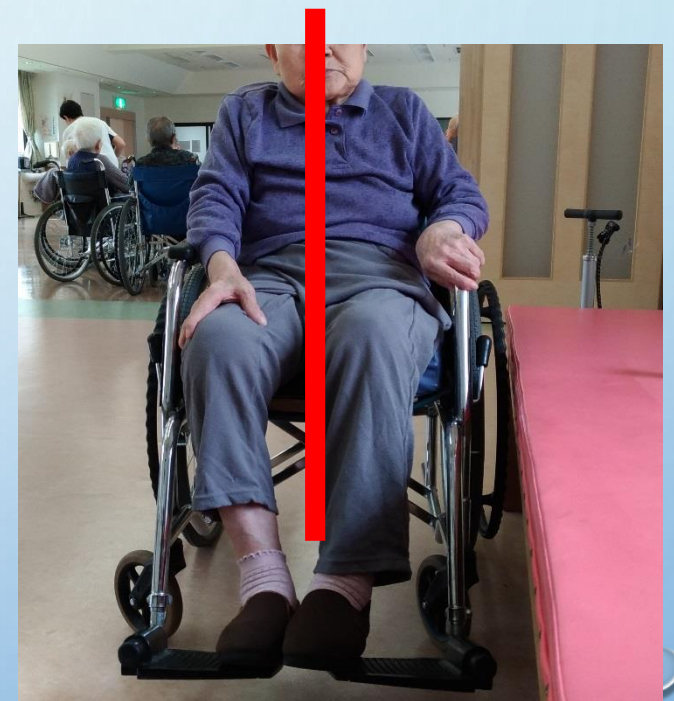
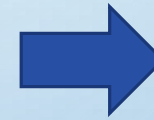
” 利用者様の声 “

「座ってもおしりが楽になった」

「時間がたってもお尻が痛くならなくなった」

活動の成果と評価

船底型の修正板の導入により座位の傾きが改善した例



船底型の修正板の追加

身体の傾きが改善
されました

活動の成果と評価

クッションや船底型の修正板の導入により座面の高さが上がるため、フットレストを一番上まで上げてても足底が届かない事例も発生した



**足が接地するよう追加板
を作成しました！**

まとめ

- 職員に対する車椅子座位の意識調査では車いすの座位姿勢に対する知識があまりないことが分かった
- 車椅子で過ごされている方の大半は車椅子以外の椅子に座ることはほとんどなかった
- シーティングはエビデンス化されてはいないが修正版の追加で姿勢の変化が現れた。このため簡単なことでもそれなりに効果があるということが分かった

今後の課題



簡易モジューラー型車椅子を
今年度導入しました！！
利用者様、職員とも好評です！！

間を提供できるように他職種へ

本格的に取り組んでいきたい

参考資料など

基礎から学ぶ介護シリーズ 座位が変われば暮らしが変わる

著者：大淵 哲也 出版社：中央法規

福祉用具プランナーが使う 高齢者のための車椅子フィッティングマニュアル

発行者：公益財団法人テクノエイド協会

ご清聴ありがとうございました